

**国立新美術館がアジアで 14 年ぶりとなる国際会議「muscon Tokyo 2026」を開催！
パブリックトークには、新館長の菅谷富夫も登壇！**



©The National Art Center, Tokyo

国立新美術館は、2026 年 5 月 27 日（水）から 29 日（金）の 3 日間、国際的な美術館のネットワーク会議「**muscon Tokyo 2026**」を開催します。

muscon（ムスコン/ Museum Network Conference の略/ www.muscon.org）は、1996 年にドイツのヴィトラ・デザイン・ミュージアムの提唱で始まりました。世界各国の美術館におけるデザイン・建築分野を中心に、美術、文化、科学等、多様な分野の展覧会企画制作の専門家が集まる国際的な会合です。参加する美術館担当者によるプレゼンテーションを通して、自館の活動や今後の展覧会企画等を紹介し、展覧会の共同制作や巡回につながる友好関係を育むことを目的としています。例年欧米の都市で年 2 回開催され、各回 50～100 名前後の参加者が世界中から集まります。アジア地域における開催は、2012 年の香港以来、14 年ぶりとなります。

最終日の 5 月 29 日（金）には、関連企画として muscon 参加者と一般参加者が意見を交わせるパブリックトーク「**デザインをみせる、建築をあつめる～世界の美術館の現場から～**」を開催します。トークには、世界のデザインミュージアムのパイオニアとして知られるドイツのヴィトラ・デザイン・ミュージアム館長のマテオ・クライス氏、アジアのリーディングミュージアムとして注目を集める香港の M+ からデザイン・建築部門統括の横山いくこ氏、画期的な展示手法が話題の最新の事例としてイギリスの V&A イーストからチーフキュレーターのブレンダン・コーミア氏を迎えます。今年 4 月 1 日に新たに国立新美術館長に就任した菅谷富夫とともに、美術館でデザインや建築を収蔵・公開する意義や役割について、ヨーロッパ、アジア、日本の国際的な視点から語り合うトークプログラムです。

国立新美術館は 2023 年に国際連携室を設置し、今回の muscon 開催等を通して、広く国内外の美術館ネットワークの発展に資することを目指しています。ぜひご取材、ご掲載をご検討いただけますようお願いいたします。

「muscon Tokyo 2026」開催概要

日時 2026年5月27日(水)、28日(木)、29日(金)
*なお、30(土)31(日)には希望者を対象とした金沢へのオプションツアーを実施します。

主催 国立新美術館、ヴィトラ・デザイン・ミュージアム

後援 一般社団法人全国美術館会議

協力 MoN Takanawa: Museum of Narratives, Tokyo Gendai

[主なプログラム]

5月27日(水) 都内美術館ガイドツアー

5月28日(木) カンファレンス1日目(参加館による各10分のプレゼンテーション)
スピード・ミーティング @国立新美術館

5月29日(金) カンファレンス2日目(参加館による各10分のプレゼンテーション)
「生誕100年 森英恵 ヴィタル・タイプ」展 解説、内覧 @国立新美術館
※カンファレンス、プレゼンテーション、ツアーは、通訳がなく英語が主言語となります。

パブリックトーク「デザインをみせる、建築をあつめる～世界の美術館の現場から～」開催概要

日時 2026年5月29日(金) 17:30～19:00 (17:00～受付開始)

場所 国立新美術館 3F 講堂

主催 国立新美術館

登壇 マテオ・クライス (ヴィトラ・デザイン・ミュージアム館長)
横山いくこ (M+シニアキュレーター、デザイン・建築部門統括)
ブレンダン・コーミア (V&A イースト チーフキュレーター)
菅谷富夫 (国立新美術館長、大阪中之島美術館特別顧問)
モデレーター: 高 美玲 (国立新美術館国際連携室長)

定員 100名

言語 日本語、英語 (同時通訳あり)
※本パブリックトークのみ、日英同時通訳がご利用いただけます。

開催中の展覧会「生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ」概要

会期 2026年4月15日(水)～2026年7月6日(月)

休館日 毎週火曜日 ※5月5日(火・祝)は開館

開館時間 10:00～18:00 毎週金・土曜日は20:00まで ※入場は閉館の30分前まで

会場 国立新美術館 企画展示室 1E

主催 国立新美術館、テレビ朝日、東京新聞

特別協力 森英恵事務所、一般財団法人森英恵ファッション文化財団

企画協力 島根県立石見美術館

協賛 ダイダン株式会社

パブリックトーク登壇者プロフィール



Photo: Bernhald Strauss

マテオ・クライス (Mateo Kries)

2011年より現職。ベルリン・フンボルト大学で美術史の博士号を取得。1995年よりヴァイトラ・デザイン・ミュージアムのキュレーターとして活動を開始。社会の変化、サステナビリティ、多様性、イノベーションの文脈における現代デザインを主な研究・実践領域とし、20世紀のデザインおよび建築史についても多数の執筆・講演実績をもつ。パリ装飾美術館 (Musée des Arts Décoratifs) 学術委員会委員、カールスルーエ造形大学 (Hochschule für Gestaltung Karlsruhe) 名誉教授。



Photo: Zaref Khan

横山いくこ (よこやま・いくこ)

2016年より現職。1995–2016年スウェーデン在住。ストックホルムを拠点にコンストファック/スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学の展示主任、及びフリーランスのキュレーター、ライターとして活動。2008年よりデザインやアートのリサーチ&プロダクションを行うNPO「Editions in Craft」を主宰し、主に南アフリカでのプロジェクトに関わる。ICAM 国際建築美術館連盟共同プレジデント、CHAT Centre for Heritage Arts & Textiles (香港) アドバイザリーコミッティーメンバー、Design-DESIGN MUSEUM コミッティーメンバー、文化庁文化審議会専門委員、国立アートリサーチセンター専門委員。



Photo: Sebastian Nevols

ブレندان・コーミア (Brendan Cormier)

ロンドンのオリンピック公園に開設されたV&A イースト・ストアハウスおよびV&A イースト・ミュージアムの2拠点を統括するV&A イーストのチーフキュレーター。V&A (ヴィクトリア&アルバート美術館) に11年以上在籍し、建築、デザイン、都市文化を横断する国際的な展覧会やプロジェクトを数多く手がけてきた。これまでキュレーションした主な展覧会に、深圳のデザイン・ソサエティにおけるV&A ギャラリー、ヴェネチア建築ビエンナーレでの《On Storage》(2025年)、V&A ダンディーでの《Photo City: How Images Shaped the Urban World》(2024年) 等がある。



菅谷富夫 (すがや・とみお)

1958年千葉県生まれ。財団法人滋賀県陶芸の森学芸員、大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を経て2017年より大阪中之島美術館準備室長。2019年初代館長に就任。近代デザイン、写真、現代美術の分野を担当する一方、新しい美術館整備を統括する。館外においても上記分野の批評・評論活動を多数行う。準備室時代に担当した主な展覧会は「美術都市・大阪の発見」展(1997年)、「早川良雄の時代」展(2002年)など。共著に『都市デザインの手法』(1998年)、『デザイン史を学ぶクリティカルワークス』(2006年)など。2026年4月より国立新美術館長。大阪中之島美術館特別顧問を兼任。



muscon について

1996 年以降、ヴィトラ・デザイン・ミュージアムは、毎年異なる地域の開催地と協力しながら、国際会議 muscon (museum network conference) を開催してきました。この会議の目的は、巡回展をはじめとする様々な共同プロジェクトについて、ミュージアムの専門家や意思決定者の間の国際的な交流を促進することにあります。muscon はヨーロッパをはじめアメリカやアジア太平洋地域で定期的開催されています。muscon のネットワークは、これまでに数百の美術館等を結びつけ、国際的なミュージアム・ランドスケープにおける巡回展の生産的な交流を大きく推進してきました。

ヴィトラ・デザイン・ミュージアム (Vitra Design Museum) について

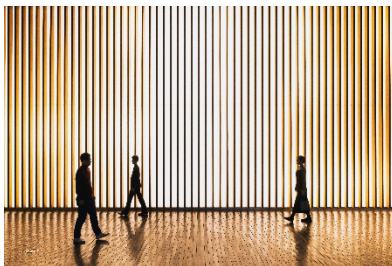
ヴィトラ・デザイン・ミュージアムは、世界有数のデザイン・ミュージアムのひとつに数えられています。当館は、過去から現在に至るデザインの研究と紹介に重点を置き、デザインと建築、美術、そして日常文化との関係性を探求しています。フランク・ゲーリー設計による本館では、毎年 2 本の主要な企画展が開催されています。当館の活動はコレクションを基盤としています。コレクションには、デザイン史における重要な作品群に加え、著名デザイナーやデザイン界の重要人物のアーカイブも含まれています。展覧会は巡回を前提として構想されており、世界各地の会場で紹介されています。



Vitra Design Museum, Frank Gehry, 1989,
© Vitra Design Museum, photo: Thomas Dix

国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007 年、独立行政法人国立美術館に属する 5 番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、あらゆる国や地域の人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース（14,000 m²）を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムや国際文化交流の実施に取り組んでいます。



©The National Art Center, Tokyo

広報用画像

プレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://forms.cloud.microsoft/r/kGFKn4vV0j>

一般の方のお問合せ： TEL 050-5541-8660（ハローダイヤル）

プレスリリースお問い合わせ：国立新美術館 広報室

Email: pr@nact.jp